



例会報告

高山西ロータリークラブ

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 井辺 一章
- 幹事 堺 和信
- 会報委員長 田中 晶洋



国分寺の紅葉 田中 晶洋

＜会長の時間＞

東京では54年ぶりという11月の初雪で、都内ではスリップ事故が多発した模様です。さすがに高山では皆さん雪に慣れていて、事故件数は割合として少なく思います。

またこの所、高齢者の運転する車での事故も頻繁にニュースになります。それが原因かどうかは分かりませんが、例会場をお借りしているこの大垣共立銀行の駐車場も、建物に接する部分にU型バリアカー設置工事をされていました。

いずれにしても、早めに冬用タイヤに換えた上、春まで気を緩めることなく、雪に注意して運転して頂きたいものです。



がアメリカへ留学し、本年の地区大会においても息子さんが発表された布目さんに、その経験を踏まえ、また受け入れにも頑張っておられるお話をさせて頂きます。地区の実情についても向井委員長からご報告させて頂きます。

当クラブからも次年度、萱垣会員のお嬢さんがカナダへ派遣されます。当然受け入れもありますので、宜しくお願ひ致します。当クラブも世代交代が起こり、メンバーも含めて外部からも募って可能な限り継続事業の道を探して下さい。今年度は国際奉仕委員会で担当させて頂きますが、次年度には明確な青少年交換の部門・委員長の役割についてもご検討宜しくお願ひ致します

＜幹事報告＞

◎東日観光(株)より

・国際ロータリー年次大会(アトランタ大会)参加旅行のご案内

＜例会変更＞

高山 …… 12月22日(木)は、忘年例会のため
18:30~角正 に 変更
12月29日(木)は、定款により 休会

＜受贈誌＞

(財)米山記念奨学会(ハイライトよねやま 200)

＜出席報告＞

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	32名	1名	33名	39名	84.62%
本日	29名	—	29名	39名	74.36%

＜本日のプログラム＞

国際奉仕委員会

委員長 斎藤 章

本日の担当例会に地区青少年交換部門委員長 向井龍三さん、下呂クラブの布目美智男さんのご夫人 美和子さまに來訪頂きました。

下呂クラブは過去 43 年間に 34 名の派遣をされました。その内、メンバーの子弟は 16 名です。従って、会員以外の派遣は 18 名になります。受け入れは 31 名になります。当クラブは過去 44 年間に、派遣 11 名、受け入れ 13 名の実績です。この様な実績をほこる下呂クラブの実情について、3 人のお子さんの内次女がフランスへ長男



国際ロータリー第 2630 地区 青少年交換部門委員長 向井 龍三 様

本日は地区青少年交換委員として二回目の訪問でお邪魔しました。

過去の高山西クラブさんの青少年交換実績としては、1972年に中田敦子さんを豪州へ派遣、翌年1月にリンダ・マーフィさんを受け入れたのを皮切りに、以後1999年の田谷佳子さんの派遣で11名、受入は2013年のエリザベスさんまで13名して頂きました。

今回、西クラブさん実に19年ぶりとなる派遣へ萱垣杏花さんが応募して下さいました。そのために萱垣さんがRCに入会して頂いたとの事、また、お母様の真美さんから素敵な礼状を頂き、大変うれしく思っています。杏花さんはしっかりしたご家庭で育てられたことが良く分かる優秀な学生で、地区としても安心して送り出す事が出来ます。

しかし、今年の派遣学生応募者が二名であったという現実もございます。原因としては、会員の方々の高齢化に伴う対象者の減少、少子化も一因かと思われる日本人の内向き志向、高校生に対する宣伝・啓蒙活動の不足、といった点が考えられます。そのため、今回委員会活動としてポスターを作成し、地区内の高校へ配布する事といたしました。

1年間日本を空けた帰国学生は受験に不利ととられがちですが、派遣学生たちはAO入試で全員第1希望の大学に入っています。

ぜひ今後もこのプログラムに参加して頂きたいと思ひます。

また、受入側としてはホストファミリーの受け手不足といった問題もあるかと思ひますが、市内の複数のクラブで対応するといった方法も含め検討いただければと思ひます。布目美和子さんはこれまで7人の留学生を受け入れて下さっており、ホストファミリーのご苦労や工夫等について、ロータリアン以上に良くご存じですので、その点についてもお話しいただくと、本日ご同行頂きました。ご参考にしていただければと思ひます。



例会報告



下呂ロータリークラブ 会員夫人 布目 美和子 様

皆さんこんにちは。下呂ロータリークラブの布目美智男の家の内、布目美和子と申します。本日はこのような機会をいただき、ありがとうございます。

私は、今までに7人のロータリー交換留学生のホストファミリーをしてきました。そして、2012年度に次女をフランスのリヨンに、2015年度に長男をアメリカのオハイオ州に交換学生として1年間留学させて頂きました。

そしてこの度は、高山西ロータリークラブさんが久しぶりに交換留学生を受け入れられるとお聞きしました。私の話が少しでもお役に立てたらと思ひ、大きく3つの事についてお話をさせていただきます。

①子どもを留学に出した経験

②留学生を受け入れた感想

③下呂RCのホストファミリーが、どの様にホストをしているかについて話したいと思います。

最初に子供を留学生にだして思ったことは、『子供達は精神的に強くなり、そして頼もしくなったとともに甲斐性が付いて、自分で考えて行動出来るようになった。』と強く感じました。大きく成長したと感じています。今思うと、この成長は出発前に、「自分から留学に行く」と決断した時点からはじまったのだと感ぜられました。

二人の子供はそれぞれに、色々なアクシデントに遭いました。

次女は出発前に、フランスの学校の通学許可書『ギャランティーフォーム』と言う大切な書類が送られてくるのですが、その書類に不備があることがわかりました。この書類は、ビザ申請の際必要な書類で、不備があってはならないものでした。そこで娘は、フランスのカウンセラーさんにすぐさま国際電話を掛けました。とは言えまだ娘は留学に行く前でフランス語が話せなかったため、英語で、「今私はとても困っている！貴方が送ってくれたギャランティーフォームに不備が見つかった！直ちに新しいのを送って下さい！」と頼んでいました。この様子を隣で見ていた私は、「これから1年間を一人でやり切るのだ！」という娘の強い覚悟、気迫のようなものを感じました。

子供を留学に出すにあたり、私達親も覚悟が必要でしたが「私達より遥かに強い覚悟の上で留学に行こうとしているのだ」と感じ、娘を尊敬する気持ちになりました。

フランス留学が無事始まったと思った矢先に、娘は3番目以降のホストファミリーが決まらないという事をリヨンのロータリークラブから聞き、不安な時期を長く過ごしました。「このままでは日本に帰されてしまう！」と思った娘は、自らホストファミリーを探し、と言う行動に出ました。2番目のホストファミリーには予定の3カ月に加え更に2週間ホームステイさせて貰えるように頼み、友達に声を掛け2週間泊めて貰える友達を2人見付けました。その間2630地区事務所もクレームを入れて下さいました。そうしている内に、カウンセラー補佐の方が現れ、その後2軒のホストファミリーを見つけて下さり、安心して留学生活が送れるようになった。

と言う事もありました。

息子は出発日の朝、下呂ロータリークラブの皆さんに見送られセントレアを飛び立ち成田空港に向かいました。ところが成田に着いたらアメリカ行きの飛行機が飛ばない、現地の気象状況が悪く日本に飛んで来ていない、というアクシデントに遭いました。一人で代替便の手配をし、その日のホテルを確保してから、到着が遅れる事をオハイオのエイボンレイクロータリーと2630地区の地区事務所、オハイオのホストファミリー、旅行社等に抜かりなく連絡を済ませ、翌日一人で出発して行きました。

このようなアクシデントばかりで無くても、日々の生活を送るだけでも最初は大変だったと言いました。言葉の通じない国へ一人で飛び込んで行った苦労は経験した者にしか分からない事だと思います。それらの事を、自分で何とかして解決させて1年間やり遂げてきた達成感、確実に子供達の自信となり大きく成長する事が出来たのだと思います。

特にコミュニケーション能力が向上したのだと思いました。留学中にそれぞれ3回の旅行がありました。参加者は様々な国からきているロータリーの交換留学生で、7日間、10日間、2週間の間バスで移動しながら旅行するというものでした。国籍、性別も年齢も違う、もちろん言葉も違う留学生と一緒に寝食を共にする中で、コミュニケーションを交わす幅が広がったと言っておりました。また、ロータリークラブの皆さんとの交流を沢山行いました。留学が決まってから地区ロータリーの青少年交換委員会のオリエンテーションから始まり、留学先でも現地のロータリークラブへの、例会の出席義務があり、ロータリアンの方々からその度に声を掛けて頂き、大人の方々との接し方の勉強になったのだと思います。またロータリークラブの例会では毎回スピーチをする機会があり、その事により物怖じしない度胸を養われたと思います。

私達夫婦も子供達のお陰で、ホストファミリーに挨拶に行く、子供の様子を見に行く、と言う口実ができ、フランスとアメリカに旅行に行く事が出来ました。夫婦で初めてホームステイも経験しましたし、観光旅行とは違う人と人との触れ合いのある心が温くなる旅行が出来ました。これらの事全てにおいて、子供をサポートして下さいましたロータリーのお陰だと心より感謝しています。

次に留学生を受け入れた感想について話させて頂きたいと思います。

一言で言わせて頂くなら大変です！気を使う、体力も使う、お金も使う。どんな子が来るか分からない不安もあります。絶対良い子力来るとは限らず、又、良い子だと思っても家庭により相性が合う、合わないが有り、中々難しいですがそれでも一生に一度ぐらい経験してみる価値がある事だと思っています。留学に来た子供達は、多感な時期に1年間を異国の地で過ごす訳ですが、この経験は、子供達にとっては一生忘れる事の出来ない思い出です。その中でホストファミリーの存在はとても大きいものです。子供の記憶の中に私達がずっと生き続けて行くと言う事は素晴らしい事だと思います。私達も留学生の事は忘れがたい記憶になっていますし、家族共通の話題となりいつも思い出は話をしてしています。

私が初めてホストファミリーをしたのは、主人がロータリアンなので、頼まれたからでした。私としては、しぶしぶ、仕方なく始めました。この私の心構えも悪かった所に、初めて受けた留学生が中々の問題児でした。お肉は大好き、でも魚は一切食べない。朝は起きない、家のパソコンを一人占めにする、「お風呂に入って」って言っても1時間以上動かない、等等。どの家庭でもクレームが出るので、会長、カウンセラーから国に帰る様言われた程でした。その時は本人が泣いて帰国したくないと訴えたそうで嚴重注意で終わり、どうにか最後までやり遂げた、と言う伝説のある留学生がいました。ところが3年後、その彼から「東京大学に半年間留学す

例会報告

る。」と連絡が有りました。暫らくして私達も東京に行く用事が有ったので、彼と夕食を一緒に食べる事にしました。あんなに時間にルーズだった彼が、きちんと待ち合わせ時間に現れ、夕食が済んで別れの際も、「今日は美味しかったです、僕の為に時間を作ってくれて本当にありがとうございました。」と頭を下げ丁寧に挨拶してくれました。下呂での留学中には想像出来ないきちんとした態度でした。この姿を見た子供も含め家族全員、なんて成長したのだ！と感動をしました。その後、東京での半年間の留学中に2回も下呂に遊びにも来ました。最後に「東京と下呂と、どっちが良かった？」と聞いたら「そんなの下呂に決まっているでしょ！」と言う返事が返ってきました。あれだけロータリーやホストファミリーに叱られ、嫌な思い出が多いはずなのに、東京より全てに於いて下呂は不便なのに、それでも下呂が好きだと言ってくれる。この気持ちは本当に嬉しかったです。きっと下呂での留学生活は苦勞をしたかもしれないけど、留学が彼にとって大きな成果をもたらしたのだらうなと思え、数々の彼への不満が一気に解消され、彼のホストファミリーをやれて良かった！と思える瞬間でした。

アメリカから来た男の子で、留学を経験してから日本が大好きになった子がいました。アメリカに帰国してオハイオ州立大学の学生になった彼は、「下呂の企業で働く経験をしたいので力を貸して下さい」と下呂ロータリーにメールを寄こしたそうです。ロータリアンの方の計らいで下呂の観光施設で2カ月のインターシップを体験し、その翌年には、東京のICU大学へ1年間の留学、更に1年後には東京の企業で5カ月間のインターシップをするという、合計3回来日し、とうとう今年の夏に東京の企業に就職をはたし子がいます。日本の大学に留学中には、アメリカのお母さんと下呂に来てくれました。東京の企業でインターシップの時は仕事が忙しかったらしく、帰国4日ほど前に「ようやく時間が空いたから1泊しか出来ないけど下呂に行くね」と連絡が有りました。私は「帰国前の忙しい時に無理なくていいよ、下呂を忘れていないと言う気持ちだけで十分だよ」と伝えたのですが、なんと彼は「下呂に帰らずにアメリカには帰れないよ！」と言い、1泊2日で下呂に来てお世話になったホストファミリーのすべてに出逢ってアメリカに帰って行きました。今年の夏、日本に就職した時は、「まだお金が無いから下呂に帰れないけど、お金を貯めて又下呂に帰るね！今回は5年のビザが下りたから暫らく安心して日本に居られるよ！」と連絡がありました。

この様に日本を好きになってくれ、下呂をふるさとの様に思い私達ホストファミリーを慕ってくれる。こんな気持ちが伝わって来て、ホストファミリー冥利に尽きると、嬉しく思う瞬間です。

留学生を受け入れると、日々一緒に生活をする中で異文化の違いを感じたり、日本の事なのに今まで知らなかった新しい発見が有り刺激のある日々が送れます。私は留学生を受け入れるようになって、高山の陣屋や上三之町、白川郷、郡上などの近くの観光名所を初めて訪れました。また、身近かある下呂市の小坂厳立公園、馬瀬の沢登りなど今まで目を向けていない所で素敵な場所が沢山ある事も知りました。

また、留学生のつたない日本語から来る勘違いで大笑いをすることなどしょっちゅうです。フランスの女の子は、エビフライをヘビフライ聞き間違え、日本人はヘビを食べるの？と驚いたり、牡蠣フライを果物の柿フライだと勘違いして、食べた瞬間「柿じゃない！」と叫んだり、皆を笑わせてくれました。ニュージーランドの男の子がキウイフルーツを皮ごと丸かじりしているのを見て驚いたり、彼が披露してくれたニュージーランドの原住民の伝統的な踊りのハカダンスを見た時は迫力満点でした。

留学生を受け入れるようになり、私はその度に、留学生の国に興味を持ち、その国に行ってみたくと思う夢が出来ました。留学生に

出逢った事で、私自身に沢山の学びや出逢いがあり、私たち家族にも沢山の思い出が出来ました。留学生と暮らす中で、沢山のものが有りました。是非この体験を多くの方にあじわって頂きたいです。

最後に下呂ロータリーはどの様に留学生を受け入れているかを説明します。

下呂ロータリークラブでは、1人の留学生を1ホストファミリーで、2カ月ずつ預かるようにしています。私の様に子供を留学に出した家は、自分の子供が海外で1年間お世話になった分、下呂に来た留学生をお世話すると言うルールが有り、したがって6人の留学生を受けたらホストファミリーから卒業になります。我が家は子供を2人出しているので必然的に12人ホストをしなければなりません。後5人受け入れをしなければ卒業できない状態です。

つぎに、1人の留学生に対し6軒のホストファミリーを集めなければなりません。まずは子供を留学に出した家庭、それでも足りない時はロータリーメンバーがホストファミリーに加わります。下呂ロータリークラブでは、受け入れる留学生が決まるとホストファミリーの会を開いてくださいます。そこで顔合わせをして1~6番のホストの順番を決めます。1番目のホストになった方は、ロータリーメンバーと共に空港に出迎えに行きます。それと、1番ホストがお弁当箱、水筒、ご飯茶碗、湯のみ、箸を準備して下さい。留学生は1年間これらの物を使いますので、2番目ホスト以降は準備しなくて大丈夫と言う様にしています。

又、1番ホストはノートを1冊準備して下さい。これは留學生日記というもので、留學生の1日の様子、食べ物の好み、癖、体調崩したときの対処法、旅行や出かけ先等、気づいた事を書いて、次のホストに引き継ぎます。このノートは大変役に立ちます。ただ最近ではラインなどグループで情報交換出来るシステムがあるので、次回からそちらの方がタイムリーに情報交換出来るし、困った時に前任者からアドバイスが貰いやすいかなと思ひ、次のホストファミリーの会で提案するつもりです。

留学生を受け入れるにあたり、私が初めてホストをする時先輩ホストの皆さんにアドバイスされたのは、「留学生を受ける前に自分の家のルールを決めておきなさい」と言う事でした。今まで出来た事を途中から留学生に止めてと言っても、今までOKだったのに何故？と言う感じで直さない事が有るからです。私の家では朝シャワーは禁止、お弁当箱は自分で洗う、自分の食べた食器はシンクに運ぶ、部屋はきれいに使う、等ルールを決め紙に書き、ホームステイ初日にいつも説明し紙は本人に渡します。外人はよく何故？と質問をしてくるので、私は何故そのルールが必要なのかを補足で書いています。例えば朝シャワー禁止については、「朝は皆忙しい、貴方が朝シャワーを使うとその時間に家族が洗面所を使えなくなり困るから」と説明すると、素直に聞いてくれます。

また、下呂のホストのメンバーで良く話をするのは「あまり手を掛けないようにしましょう」と言う事です。海外へ留学していた子供達が帰国して口を揃えたように言うのは「下呂のお母さん達は日本に来る留学生に気を遣いすぎ」と言う事でした。海外だと留学生でも家の仕事を任されたり、普通に毎日の食事が、外食やデリバリーだったり、留学生自ら洗濯や食事の準備をしたそうです。実際に、私達夫婦でホームステイさせて貰った時も、向こうの家族は自分のペースは崩さず、それで空いた時間は私達に付き合う。と言う日本人のおもてなしとはちょっと違う感じでした。私も最初の頃は至れり尽くせりで留学生のお世話をしていましたが、最近では私が忙しい時はコンビニのお弁当ですませたり、義父の分のお昼の準備も留学生にお願いしていく事もあります。なるべく「留学生の受け入れを負担に思わないように」「特別に留学生をどこかに連れていこうとか思わないようにしましょう」とホストファミリーメンバーと話しています。

例会報告

高山西ロータリーの中で今回ホストされる方も、最初から気負わず無理をしない受け入れをしてください。そうは言っても慣れない事をする大変さは有り、その中でも奥様の負担が一番大きいと思われれます。旦那様は奥様のサポートを第1に考えて頂けたらと思います。

下呂ロータリーにも来春から新しい留学生が来ると聞いています。我が家にとって8人目の留学生となります。新しい出逢いが楽しみだったり不安だったり、何人受けても最初のこの気持ちは変わりません。高山西のホストファミリーの皆さんも思い出に残る受入をして下さい。高山と下呂は近いので、留学生同士仲良く出来たら良いと思います。そしてホストファミリーとしても交流が持てたら良いなと思います。仲良くして下さい。

今日は貴重な時間を頂きありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●国際ロータリー第2630地区 青少年交換部門委員長 向井 龍三 様
下呂ロータリーの向井です。本日は二回目の卓話にお邪魔しました。ありがとうございます。来年度の派遣学生に優秀な萱垣杏花さんをご推薦頂き大変嬉しく思うと同時に感謝申し上げます。

●井辺 一章さん、堺 和信さん

国際ロータリー第2630地区青少年交換部門委員長 向井 龍三 様、そして下呂ロータリークラブ会員夫人の布目 美和子 様のご来訪を歓迎いたします。本日の卓話をよろしくお願ひいたします。当クラブは来年度、留学生の受け入れが決まっています。これまで受入経験のない会員の方は、本日のお話しを参考にして頂き、是非ともご協力をお願いします。

●斎藤 章さん

本日の担当例会に地区青少年交換部門委員長の向井 龍三さんと卓話ゲストの布目 美和子 様のご来訪を歓迎申し上げます。よろしくお願ひいたします

●小森 丈一さん、伊藤 松寿さん、米澤 久二さん、鴻野 幸泰さん
地区青少年交換部門委員長 向井 龍三 様のご来訪を敬致します。

●古橋 直彦さん

向井 龍三さんのご来会を敬致します。いつもお世話になっています。本日は宜しくお願ひいたします。

●萱垣 敬慈さん

11月12・13日の青少年交換オリエンテーションで娘が向井様に大変お世話になりました。これからも何卒よろしくお願ひ致します。

●内田 幸洋さん

・向井委員長、お役目ご苦労様です。
・今月末まで1 \$ 102円です。来月から106円です。是非今月中にロータリー財団にご協力よろしくお願ひします。

●田近 毅さん

先日23日「こだまーれ」の一環で高山日本舞踊協会「名流会」が開催されました。妻、花柳美玲が長唄「藤娘」「四季の高山・高山小唄」等を踊り、大変好評を頂きました。感謝。|

●田中 晶洋さん

昨日24日は自坊の報恩講でした。年々参詣者が少なくなり寂しくなっては来ましたが、何とか伝統の灯を消すことなく続けられるよう頑張りたいと思います。本日は福祉事業の研修会のため早退させていただきます。

●伊藤 松寿さん、平 義孝さん、田中 武さん、下屋 勝比古さん、大村 貴之さん、塚本 直人さん、山下 直哉さん、住田 泰典さん、田邊 淳さん、黒木 正人さん

いよいよ高山にも雪がちらつき始めました。毎年のことながらいよいよ雪の時期になってしまいました。今年はカメムシの発生が多いことから大雪の予想！皆さん雪の対策はもうお済みですか？

座右の銘

折茂 謙一

『悪運は私にとっては
神からの恵みである』



私は子供の頃から精神的にも肉体的にも傷つき易く、粘りが無い。風邪をひくと、途端に無気力、無力になってしまう。これを何とか直そうと子供の頃から色々努力しているのであるが、なかなかその効果がでない。一ヶ月以上の療養を要する病気にも何度か罹っている。なぜ私がこんな悪運に逢わなくてはいけないのだと恨んだりしていたが、その度に私の人生は思わぬ方向転換をしているのである。結果的に見るとその悪運がすべて私の人生を良い方へ良い方へと導いているのではないか。だから悪運は神からの恵みであると私は信じている。

座右の銘

米澤 久二

『一本の補助線を引く』



学生時代に図形の問題は大して好きではありませんでしたが、問題を解く際に一本の補助線を引くことにより、問題の図形の様相が全く違って見えることがありました。こんな時は頭に光がパアッと走りました。改めて解法を見出しました。長じていろんな困難な問題に直面した時は努めて「一本の補助線を引く」ことにしています。

座右の銘

田中 武

『獅子身中の虫』



職人なら食いはぐれが無いので職人になり、又(頭の良者は学校へ行け頭の悪い者は身体で稼げ)当然私は身体で稼ぐ事にしました。(親父は人がよく、全くの職人で、よく騙されて借金ばかりでした)怖かったのは(金銭の保証・約手の裏書・その他)何回も潰れる様な目に会い、これでは駄目だと思ひ無知恵を絞りながら経営の勉強もし、それでも娑婆は簡単には受け入れてもらえず(日夜寝ずに努力?)それでも何回も潰れる様な目に会い、格好良く言えば(百戦錬磨?)色々娑婆の勉強を実感しました。何が原因で会社(家庭)は潰れるのか?結論から言えば、潰れる原因を、他人のせいにするのでは無く自分の蒔いた種は自分で刈り取ると言う事だと思ひます。それは間違いなく原因は自分にあります『獅子身中の虫』自分自身です。